



立派な先輩

李 冬 杰
LI DONGJIE

私は防災商品を製造している会社で働いています。日本に来て2年が経った頃、7歳年下の施さんが同じ実習生として来日し、私と同じ職場に配属され、私の後輩として働くことになりました。

彼女は仕事を一度教えたらすぐに覚え、ミスの多い私とは違いすごく頭の良い人でした。彼女は作業前の設備点検や作業後の日報なども完璧に出来ました。更に私が羨ましいと思ったのは、彼女は私が出来ると全ての技能を既に習得し、しかもミスが無いという事です。

私も先輩らしい事を何かしないと、日本語が苦手な彼女を病院に連れて行ってあげたり、日本語の先生を紹介してあげたりしました。日本語能力は私が上なので一緒に勉強している時だけは先輩らしく偉そうに「施さんもっと勉強しないとダメですよ！」と言って先輩の威厳を保っていました。

そんなある時、言葉の行き違いで日本語の先生に深く誤解されたことがあり、頑固な私は全く弁解しようとしませんでした。それが原因で先生とはもう絶交かと思ったのですが、約一週間後先生の方から謝りメールをもらい、誤解は解けました。

先生の方からなぜ謝ってくれたのかは後から分かった事ですが、施さんが私のために長い日本語のメールを先生に送ってくれていたのです。そのメールの中には「李さんは私を妹のように思い、いつも助けてくれます。李さんは絶対に悪い人ではありません。誤解しないでくだ

さい…」とぎこちない日本語で書いてあったそうです。このメールを送るのに彼女は何時間もかけて辞書で調べながら書いたのだと思います。その時の姿を想像して私は涙が止まりませんでした。

ある日、施さんに「中国に帰ったら何をしたい？」と聞いてみました。施さんは「家を買いたい」と答えたので私は「家がないの？」と聞き返しました。すると施さんは「あったけど火事で燃えちゃった。幸い家族はみんな無事だった」と平気な顔で答えました。そんな彼女の過去を聞いて私は思いました。なぜ彼女はいつも真面目にミスも出さずに一生懸命仕事に取り組んでいたのかということ。身をもって火災を経験し、火災報知器を作っている自分の責任の重さをいつも感じていたのです。ライン作業は単純でつまらないと思っていたりしましたが、私が毎日作っている商品がもし彼女の家にあったら…今改めて自分の仕事が地味にすごいと思いました。同じような辛い思いをさせたくないから全力で仕事をしている彼女を尊敬します。

今私たちは生活面では親友、仕事面ではライバルの関係です。お互いに助け合って競い合って成長しています。年齢と職歴において彼女は後輩ですがその優しい心、真面目な仕事ぶり、強い責任感、私の手本です。立派な先輩のような存在です。これから先、私も頼もしい先輩になれるよう日々努力していきたいと思っています。